

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本腎臓学会
理事長 柏原 直樹

I. 日本腎臓学会の学術活動

【学術的に重要と考えられるもの】

日本腎臓学会のミッションは腎臓学・腎臓病学の研究と普及を通じて社会貢献をし、国民の負託に応えることにある。これを達成すべく、腎臓学の学理探究、人材育成、生涯教育の奨励、研究成果の社会還元・普及、国民の健康福祉への貢献と、学会活動は多岐にわたる。2017年、学会事業の中期計画である、「日本腎臓学会5カ年計画」を作成した。今後の日本腎臓学会の活動を決定する重要なランドデザインとなる。5カ年計画に基づき、事業の優先度を決定し、事業を実施し、年度毎に進捗度を評価、計画修正を行う（PDCA）ことで効率的に事業が展開できると考えている。2021年は第一期5カ年計画の終了年であり、評価を実施中である。2022年に第二期5カ年計画を作成予定である。

1. 重要課題への取り組み

国内および国外における腎臓領域の学術活動・研究成果の現状を把握・分析し、また厚生労働省、文部科学省、医薬品医療機器総合機構、日本医療研究開発機構、製薬企業（製薬協）等から積極的に情報収集し公開セミナーなどを開催した。関連領域・学会からのガイドラインや提言、難病申請書類・審査基準などを査読・評価し積極的に調整・作成に関与した。

2. 学会主導研究の実現に向けての検討と基盤整備

理事長直轄の重点事業委員会（特に学術研究企画戦略委員会と5カ年計画作成委員会）および日本腎臓協会と連携し腎臓領域における医療 Needs について課題解決に向けて実効性のある議論ができる場を設定することを目的に、会員が統括する公的研究の成果発表会を年一回合同で行い、学会員での成果の情報共有を行なっている。

3. 腎臓領域における基礎研究推進

基礎研究推進については、個別に基礎研究推進小委員会を設立し活性化を図っている。基礎研究コンソーシアム設立、基礎系学会との連携シンポジウム・ワークショップの企画・開催（日本分子生物学会、日本製化学会など）、「女子中高生の夏の学校」活動、「女子中高生向けキャリアパスイベント」開催、「バーチャルリソースセンター（お役立ちサイト）」運営等を実施した。

【腎臓学領域における国際的な役割】

アメリカ腎臓学会、国際腎臓学会、欧州腎臓病透析移植学会、アジア太平洋腎臓学会など、海外の主たる学会と密接に連携し、定期的な leadership meeting を定期開催している。双方の総会における Joint symposium や e-Seminar の開催、Ambassador の派遣、CME の提供、活発な共同研究、留学を促進するマッチングサイト提供などを行うことで、日本の腎臓学のプレゼンスを示すとともに、国際的なリーダーシップを発揮してきた。日本腎臓学会のメンバーはさまざまな国際学会において要職につき、日本腎臓学会の国際的なプレゼンスを牽引している。南学特別顧問は、アジア太平洋腎臓学会の現 President であり、国際腎臓学会の次期理事長（President Elect）に決定している。

【活動からもたらされる社会的意義】

国民の12-13%が慢性腎臓病に該当する。腎不全患者も増加の一途であり、毎年4万人以上が新規に透析に導入されている。社会への大きな疾病負荷となっており、腎臓病克服は喫緊の課題である。

2018年厚労省健康局に「腎疾患対策検討会」が設置され、今後10年間の本邦の腎臓病対策の指針が策定された（腎疾患対策検討会報告書）。全体目標として以下が設定された。①慢性腎臓病（CKD）を早期に発見・診断し、良質で適切な治療を実施・継続する、②CKD重症化予防を徹底する、③CKD患者（透析、腎移植患者を含む）のQOLの維持向上を図る。腎臓学会の活動目標と整合するものであり、この達成に取り組んでいる。

【学会運営上の留意点】

1. 中・長期計画に基づく学会運営

前述した「日本腎臓学会5カ年計画」に基づき学会運営にあたっている。

2. ダイバーシティの確保

学会運営組織の中で、理事・幹事ともに女性比率のさらなる増大に留意している。学術総会における座長、シンポジウムの主要役割に女性と若手の登用を積極的に進めている。

3. 学会活動の透明性の確保

理事は評議員による公選制としている。学術総会の総会長、東部・西部学術大会の大会長も立候補と理事会による投票で決定している。

II. 腎臓学会と他の分科会との連携

関連分野の他の分科会とも積極的に連携を進めている。以下の学会とは、1)合同委員会の設置、2)ガイドラインの合同作成、3)理事長、幹部による定期的意見交換会（リーダーシップミーティング）、4)学術総会における共同シンポジウム開催等で緊密に連携している。日本内科学会：各種委員会活動への参画等、透析医学会、糖尿病学会、医療情報学会、日本泌尿器科学会、移植学会、リウマチ学会、癌治療学会、臨床腫瘍学会等と連携している。

III. 日本医学会への期待・要望

医学領域全体を俯瞰し、各分科会をリードしていただける日本医学会の存在は大変心強い。以下を希望したい。日本医師会との連携、米国のJAMAに相当する学術誌の創刊、顕彰制度の拡充、分野横断的な分科会の連携の促進等。